



ひと、
まちも、
きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1
<http://www.aeonmall.com>

株主のみなさまへ

2008年2月期 報告書

CONTENTS

- 1 ● 私たちの理念・ビジョン・事業
- 3 ● 社長インタビュー
- 5 ● 中期経営計画
- 7 ● 全国SC一覧
- 9 ● 新店ルポ
- 13 ● 財務概況
- 17 ● 財務諸表
- 18 ● トピックス
- 19 ● 株式の状況・会社概要



Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業



経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって魅力溢れる新しい生活があるまちのことを指します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人を指します。

コーポレートメッセージ

ひとも、まちも、きらきら。

経営ビジョン グローバル5

目標
2017
年

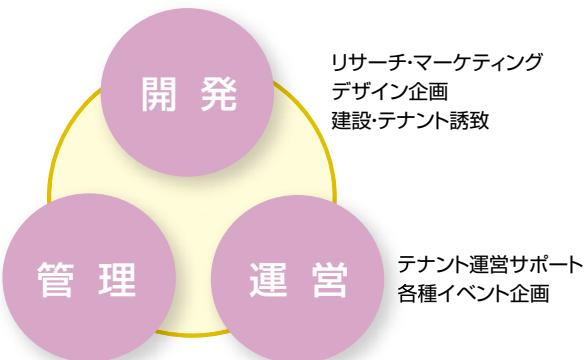
- 国内外150モール体制
- 働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1
- RSC*ビジネスモデルを超えた新領域でオンリー1
- 「驚き、感動、喜び」のある最高のサービスで、人気スポットナンバー1
- 環境マネジメントモール世界のディベロッパーでトップクラス



私たちの「輝きのあるまちづくり」

SC(ショッピングセンター)事業

多機能複合型SCづくり、新しい価値の提供。



保険代理店事業

2008年2月21日、保険代理店事業をイオン保険サービス株式会社に分割。当社の関連会社となりました。

*RSCとは:リージョナルショッピングセンター(Regional Shopping Center)の略

Top Interview

社長インタビュー



株主の皆さまのご理解のもと、2007年8月21日、イオンモール株式会社は株式会社ダイヤモンドシティと合併し、“新生”イオンモールとして新たなスタートの緒につきました。合併して未だ1年足らずですが、業績は順調に推移し、早くも目的として掲げた『それぞれの経営資源、高いノウハウの結集、新たな成長戦略の確保とコストパフォーマンスの最適化』を実現しています。

代表取締役社長
阿部 孝行

Q 合併は、どのような効果を生み出したのでしょうか。

A 今回の株式会社ダイヤモンドシティとの合併を、私は「心と心の合併」と申し上げています。つまりは、『人』を最重要視した合併だということです。効果は非常に複合的で多岐にわたります。具体的には、ショッピングモールの名称を統一して、すべて“イオンモール”としてお客さまにご認識いただきました。同時に「ワンカンパニー・ワンシステム」という考え方を導入し、社内の制度やシステムの統一化を図りました。また「イオンモール羽生」「イオンモール日の出」の新規開店、そして「イオンモール川口キャラ」「イオンモール千葉ニュータウン」の大型増床・リニューアルオープンと、11月のうちに4店舗ほぼ同時オープンという困難な事業の完遂も、合併による組織力の充実なくしては、なし得なかったものと確信しています。

さらに私が強調したいのは、冒頭申し上げた『人』の融合です。それぞれの人材が培ってきたノウハウを、お互いに浸透させつつ共有する、結局はコミュニケーションということに尽きますが、この徹底化を企図しました。単に会社と会社、人と人が一緒になったということではなく、全く新しい会社をつくるのだ、という高い目標を掲げて合併を推し進め、そして成果をあげている、ここが最大のポイントと申せましょう。

Q 2007年度の営業概況についてお聞かせください。

A 増収増益で、過去最高の業績を残すことができました。これもひとえに合併への株主の皆さまのご理解のたまものと深く感謝申し上げます。2007年度、イオンモールは46SC体制となりました。

当連結会計年度の営業収益は、345億5千3百万円増加の968億6百万円(前年同期比55.5%増)となり、営業利益は、販売費及び一般管理費が34億3千2百万円増加したものの、97億6千3百万円増加の316億4千2百万円(同44.6%増)となりました。経常利益は、98億8千1百万円増加の306億8千1百万円(同47.5%増)、当期純利益は、174億3千9百万円(同43.2%増)となりました。

当社は、成長を継続させ企業価値を高めていくことはもちろんですが、同時に、株主の皆さまに利益を還元する所存です。2007年度の配当につき

ましては、中間配当が1株当たり7円50銭、期末配当も同額を予定していましたが、実際は2円50銭増の10円に修正、配当金の合計は17円50銭といたしました。また、ご希望される株主の皆さまには環境社会貢献(CO₂削減)への参加をご選択いただける株主優待制度を新たに設立しました。

Q 中期経営計画における具体的な取り組みは？

A イオンモールは、2017年度に向けた長期ビジョンを、世界のディベロッパーランキングにおいてベスト5を目指した「グローバル5」を制定しています(本誌2ページ参照)。この「グローバル5」の達成に向けて、中期経営計画(2008年度～2010年度対象)を策定しましたが、対処すべき課題として、具体的に以下の5点を掲げています。

- ①新規ショッピングモールの出店拡大
- ②既存ショッピングモールの収益力向上



- ③国際事業の本格的な展開
- ④活性化ビジネスへの取り組み
- ⑤地球温暖化防止活動の推進

経営指標としては、2010年度にSC小売売上高2兆円、営業収益2,000億円、経常利益600億円に、そして、自己資本比率30%、総資産経常利益率(ROA)10%を目標としています。

当社は小売業に精通したショッピングモール專業ディベロッパーです。その強みやノウハウをフルに発揮し、地域に根ざした、地域社会と共存共生できるショッピングモールを開発し、お客さまのニーズにお応えしてまいります。具体的に申し上げますと、2008年度には、4SCの新規出店ならびに6SCのリニューアルを達成いたします。

Q 海外への出店計画について教えてください。

A 現在、アジアを中心に、モール・ビジネスの本格的な展開の基盤づくりを推進しようとしているところです。第一弾として、2008年北京での1号店開店を進めています。また、2008年3月には、北京に続き、上海事務所を開設しました。まず北京1号店を見て、そこで運営ノウハウを構築し、華北・華東を中心に新規物件開発を推し進め、中国における多店舗展開のビジネス・モデルを確立していきます。その際、単に間口を広げるだけの拡大ではなく、確実に精査をして出

店につなげていく姿勢こそ肝要だと考えています。

実は、グローバル化の波は大きな流れとなって、すでにSC業界へ押し寄せています。イオンモール各店においても、様々な国から訪れるお客さまが増え、それともなって店揃えを多様化し、フロアガイドの表記を3か国語にするなど、サービスの国際化も既に進めております。私たちは日本に居ながらにして全国46SCで、日々ケーススタディとしてのグローバル化を体得しているのです。

私は、国外へ進出することだけがグローバル化だとは考えません。SCがグローバル化にしっかりと対応していくことが肝要と考えています。

Q 来期の見通しと、最後に株主の皆さまへひと言お願いします。

A 通期の連結の業績見通しは、営業収益1,300億円(対当期比34.3%増)、営業利益410億円(同29.6%増)、経常利益400億円(同30.4%増)、当期純利益は210億円(同20.4%増)を見込んでいます。

ショッピングモールという業態は、他業種からも注目を集めていますが、「お客さま対策に勝る競合店対策はない」というのが私の持論です。今後とも、お客さまの視点に立った魅力的なショッピングモールづくりを目指し、確実に前進してまいります。どうぞ“新生”イオンモールにご期待ください。

Plan 中期経営計画

広い視野と高い志を持ち、世界で通用するグローバル企業への飛躍を目指して、5つの重点項目に取り組んでいます。

2010年度までに新規SC 15SC

1 新規SCの出店拡大

本格的なSC時代を迎えて、お客さまから支持をいただき、地域と共生するSC開発に一層注力し、新規SC出店の拡大を加速していきます。2007年11月には「イオンモール羽生」(埼玉県)、「イオンモール日の出」(東京都)を開店し、SC数は46となりました。今後は、2010年度までに15SCの新規開店を計画しています。

ニーズに対応した店作りで収益拡大

2 収益力の向上

テナント誘致力の向上、計画的な増床・リニューアル、お客さまのニーズやマーケット特性に適應した専門店の導入・入れ替えなど、さまざまな施策によって、常に新鮮な魅力にあふれたSCづくりを行います。加えて、営業組織を全国7つのエリア別に編成し、マーケティング・現場サポート・リーシングの機動性を高め、SC営業力を強化してまいります。

アジアを中心とした海外店舗

3 国際事業の本格的な展開

アジアを中心としたモール・ビジネスの本格的な基盤づくりを進めます。特に中国では、2008年開店の北京1号店における現地での運営ノウハウを構築するとともに、華北・華東を中心に新規物件開発を推し進め、多店舗展開できるビジネス・モデルを確立します。

リニューアルによる活性化

4 活性化ビジネスへの取り組み

お客さまの選別消費が進む中での事業戦略として、既存店の増床・リニューアルによる活性化ビジネスに取り組んでいきます。3月にはプロパティ・マネジメント営業部を新設し、イオンモールがこれまでに培ってきた開発・運営・管理のノウハウを提供して、既存店に新たな息吹を吹き込み、賑わいのあるSC空間を創造することで地域の活性化にも貢献を果たします。

環境と共生する店づくりでCO₂削減

5 地球温暖化防止活動の推進

「イオンモールCSR委員会」を設置し、法令遵守に加え環境保全・社会貢献に関する行動規範、基準を策定して取り組みを進めてきました。さらに「イオンモール地球温暖化防止規定」を制定し、全社的なCO₂削減プロジェクトもスタートさせ、「環境と共生する店づくり」を目指します。

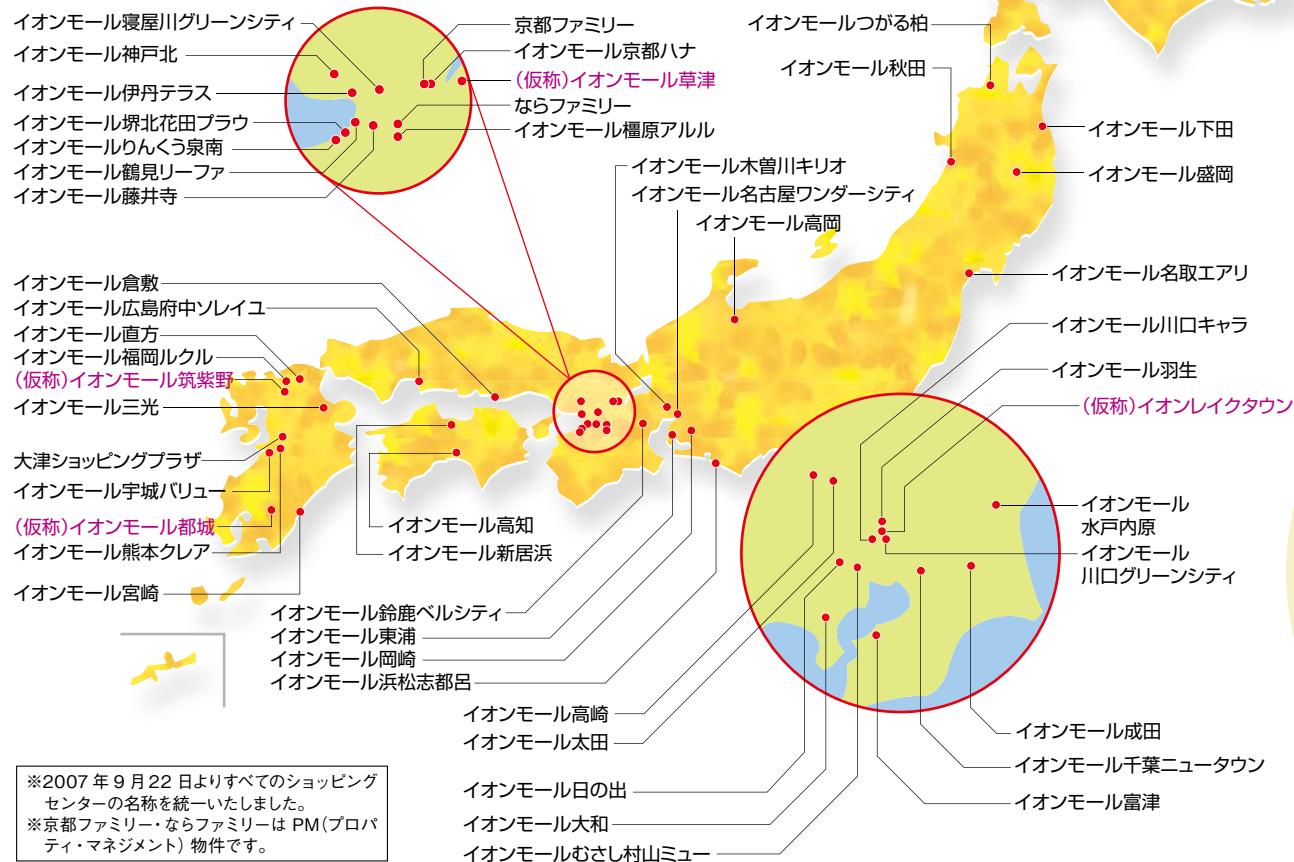


Line Up

全国SC一覧

新生イオンモールの「輝きのあるまちづくり」は、2008年46SC体制でスタートしました。

2007年11月に「イオンモール羽生」(埼玉県)、「イオンモール日の出」(東京都)をオープンしました。また「イオンモール川口キャラ」は大規模リニューアルを実施し、2008年の新生イオンモールは46SC体制でスタートしました。本年度は「(仮称)イオンモール草津」(滋賀県)、「(仮称)イオンモール筑紫野」(福岡県)、「(仮称)イオンモール都城」(宮崎県)、「(仮称)イオンレイクタウン」(埼玉県)がオープン予定です。今後も、わたしたちは「輝きのあるまちづくり」を目指し、新規開店に加え、既存SCの増床・リニューアルを積極的に推し進め、地域社会の活性化に貢献していきます。



イオンモール羽生 2007年11月2日 オープン

新生イオンモール第1号店となったイオンモール羽生は、イオングループ最大規模の204の専門店からなるショッピングモールです。良好なアクセス環境で、開店以来、ご家族連れのお客さまを中心に、広域からも多数の皆さまにご来店いただき、好調なスタートを切っています。



イオンモール日の出 2007年11月23日 オープン

イオンモール羽生に次いでオープンした「イオンモール日の出」は、多摩エリア初出店となる日の出サティを核店舗として、156の専門店を展開しています。広域からの道路アクセスに恵まれ、最寄駅からのバス路線も新設されるなど、公共交通機関を利用してのご来店が便利になっています。



増床・リニューアル (イオンモール川口キャラ・イオンモール千葉ニュータウン)

「イオンモール川口キャラ」は、約100店舗あった専門店を1.5倍の166店舗に拡大する大規模な増床・リニューアルを実施し、11月23日にグランドオープンしました。「イオンモール千葉ニュータウン」では、新たに延床面積12,793㎡のエンジョイライフ棟を増設しました。



SC数と営業収益の推移



2008年度の出店計画

- ・(仮称)イオンレイクタウン
- ・(仮称)イオンモール都城
- ・(仮称)イオンモール草津
- ・(仮称)イオンモール筑紫野

2008年度増床・リニューアル計画

- ・イオンモール東浦
- ・イオンモール鈴鹿ベルシティ
- ・イオンモール倉敷
- ・イオンモール福岡ルクル
- ・イオンモール岡崎
- ・イオンモール橿原アルル

※2007年9月22日よりすべてのショッピングセンターの名称を統一いたしました。
※京都ファミリー・ならファミリーはPM(プロパティ・マネジメント)物件です。

New SC

イオンモール羽生・イオンモール日の出

新店ルポ

2007年11月2日にオープンした「イオンモール羽生」。そして11月23日にオープンした「イオンモール日の出」。太陽の陽射しがとても心地良い、爽快感あふれる空間、屋内とは思えない開放的な明るいショッピングモールです。春の日の午後、「イオンモール羽生」を訪ね、オペレーションマネージャーの佐々木清博さんにお話を伺いました。

地域の拠点となる店づくりを目指します。

想像していた以上に大きなショッピングモールですね。全店歩くのにもずいぶん時間がかかりました。

そうですね。イオンモール羽生のモールの長さは約285メートルあるんですよ。まずは規模の大きさ、多種多様な店舗構成、そして環境面でのさまざまな配慮が、当SCの特長と言えます。核となる「ジャスコ羽生店」のほかに、シネマコンプレックス「ワーナー・マイカル・シネマズ」、スポーツ大型専門店「スポーツオーソリティ」、家電大型専門店「上新電機」、アミューズメント施設「プラサカブコン」な

佐々木 清博さん
イオンモール羽生
オペレーションマネージャー



イオンモール羽生

ど、多彩な店舗が入っています。さらにアパレル関連から雑貨まで204の店舗をかまえ、地域の幅広いお客さまのあらゆるニーズに応えられる大規模複合型ショッピングモールです。店舗の中には埼玉県初出店となるテナントが57、そしてイオンモール初出店となるテナントが35もあります。駐車場も5,000台収容可能で、うち60台は身障者の方専用で、これはイオングループのショッピングモールとして最大規模です。さらにそのうち29台については、リモコンによる自動入庫対応型となっていて、リモコンはサービスカウンターで登録していただいた後、お渡ししています。

施設内外の案内マークがとてもわかりやすくていいですね。

いいところに気づいていただいて嬉しいです。イオンモール羽生・イオンモール日の出とも開発計画段階から、お子さま連れなどすべての方々に優しく快適な「ユニバーサルデザイン」の実現に向けて、地域の皆さまと情報交換を行ってきました。より見やすく、わかりやすい案内表示が実現できたのもその成果と言えます。同時に、ご高齢の方、



施設内の案内マーク

身障者用駐車場



プライオリティベンチ



キッズトイレ

ハンディキャップをお持ちの方、お子さまなどのすべての方々に安心して快適にショッピングしていただけるよう、「バリアフリー新法」の基準に則り、例えば、小さなお子さまでも無理なく利用できる、高さの低い水飲み場を随所に設置しております。

また、以前よりニーズの高かったお子さま専用「キッズトイレ」や「トイレ付きのベビー休憩室」、ショッピング中の休息にご利用いただくベンチを数多く設置しました。さらに、ご高齢の方、ハンディキャップをお持ちの方のために「プライオリティベンチ」を各フロアにご用意しています。

DATA イオンモール羽生

所在地：〒348-0039 埼玉県羽生市川崎2丁目281番地3
敷地面積：232,806㎡(建物延床面積：113,783㎡)
駐車台数：5,000台(内60台身障者専用駐車場)
商業施設面積：88,208㎡
駐輪台数：815台(自転車用693台、バイク用122台)

イオンモール日の出

所在地：〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町大字平井字三吉野桜木557番地
敷地面積：131,685㎡(建物延床面積：124,626㎡)
駐車台数：3,700台(内56台身障者専用駐車場)
商業施設面積：73,447㎡
駐輪台数：685台(自転車用584台、バイク用101台)

環境への取り組み

外壁の一部に“リサイクルウッド使用”と明記してあったり、1階中央入口を入った所にエコ関連の表示があったりして、環境問題に独自に取り組んでいるという印象を持ちました。

はい、両ショッピングモールとも環境には深く配慮しています。お気づきいただいた取り組みをはじめ、二酸化炭素を排出しない太陽光発電を導入。これはイオンモール初の取り組みとなります。屋根面に約1,000㎡におよぶソーラーパネルを設置し、約100kwhの太陽光発電を実現しています。これは40wの蛍光灯を例にとると、1時間当たり、2,500本分の電力に相当します。

さらに、夜間電力を利用して氷を蓄熱槽につくり、それを昼間の冷房に使うなど、省エネルギー対策にも積極的に取り組んでいます。

また、イオンモール日の出では特に壁面(約500㎡)、屋上緑化(約2,400㎡)に力を入れており、これは、当社最大規模の取り組みとなります。



氷蓄熱冷房装置



イオンモール羽生のソーラーパネル



イオンモール日の出の屋上緑化

幹線道路に面していながら、周囲の環境も緑豊かで理想的ですね。

イオングループでは新規にオープンするショッピングモールの敷地内に、地域に自生する樹木の苗木をお客さまとともに植樹する「イオンふるさとの森づくり」を行っているのですが、イオンモール羽生ならびにイオンモール日の出でも「緑に囲まれたショッピングセンター」をスローガンに、地域に自生する苗木計約15万本をお客さまと一緒に植樹しました。これらの活動を通じて自然環境との調和を図るとともに、イオンモールにご家族で訪れるお子さまたちの世代につないでいきたいと考えています。



CSRへの取り組み

イオンモールは地元との連携をとても大事にしているとのことですが……。

地域に根ざすショッピングモールとして、当然地域の皆さま、地域との協力を大切に考えていきたいですね。イオンモールでは、「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」と申しまして、毎月11日を「いい日・いい街・イオンデー」として、地域のボランティア団体へ、投函されたレシート金額の1%相当の品物をお渡しして活動に役立てていただくキャンペーンを行っています。また、従業員が店舗周辺や公共施設などの清掃を行う「クリーン&グリ

ーン活動」など、さまざまな地域貢献活動を続けています。また月に一度、モール内に献血ルームを設け、日本赤十字の献血キャンペーンに協力しています。さらにショッピングモール内での不測の事態に備えて、AED(自動体外式除細動器)を6台設置しました。いざという時、あわてず安全確実にAEDを使用できるよう、36名の従業員が救命講習を受講しています。



AED

イオンモール日の出においても、さまざまな社会的取り組みを実施しています。“ゼロエミッション ショッピングセンター”として、ショッピングモールから排出される廃棄物は、すべてリサイクルされており、日の出町への負担はありません。また、モール内にあるイオンホールでは日の出町の155名の新成人を迎え、成人式の式典を行い、たいへんな盛況ぶりでした。

さらに、モール内の安全・安心だけでなく、災害に強い街づくりにもご協力しようとの考えから、イオンモール羽生は埼玉県と、イオンモール日の



出は日の出町と各々防災協定締結をしています。これは、大規模災害時にショッピングモールの駐車場に緊急避難用の大型テント“バルーンシェルター”を設置するなどし、ライフラインである水や食料品などをすみやかに供給する拠点として活用しようという試みです。

今日は、ありがとうございました。最後に、これからの目標を聞かせていただけますか？

「輝きのあるまちづくり」の経営理念のもと、「地域との共生」「環境との共生」を目指し、文化向上の拠点となるような店づくりを進めてまいります。



イオンモール日の出

Financial Review

2008年2月期の業績概況

2007年8月21日に株式会社ダイヤモンドシティと合併後、新生イオンモール株式会社として初めての決算を迎え、営業収益968億6百万円(前期比55.5%増)、営業利益316億4千2百万円(同44.6%増)、経常利益306億8千1百万円(同47.5%増)、当期純利益174億3千9百万円(同43.2%増)と大幅な増収増益となりました。1株当たり当期純利益は、115円63銭となりました。

SC数は、ダイヤモンドシティとの合併により、19SC増加するとともに、当期は新規に羽生:日の出を開設したこと

により、46SCへ大幅に増加しています。

当期の1株当たり年間配当金は、15円(中間配当7円50銭、期末配当7円50銭)を予定していましたが、期末配当を10円とし、年間配当金を1株当たり17円50銭とさせていただきます。

次期(2009年2月期)の業績は、旧ダイヤモンドシティの1年間の業績が反映されることから、営業収益1,300億円、経常利益410億円、当期純利益210億円を見込んでおります。年間配当金は、1株につき20円を予定しています。

連結財務ハイライト



(注)2007年2月20日を基準日として、2007年2月21日付で普通株式1株を2株に分割しております。また2007年8月21日付で(株)ダイヤモンドシティを吸収合併しました。

Financial Date

連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表のポイント

【総資産】

ダイヤモンドシティとの合併及び合併後に2SCの新規開店によりSC数が増加したことで、総資産は、前期末の2,330億5千7百万円から3,776億6千1百万円と大きく増加していますが、2SCで資産の流動化を行い、有形固定資産の増加を抑え、バランスシートのスリム化を進めました。

【負債】

営業キャッシュ・フロー及び有形固定資産の売却による収入を原資に有利子負債を削減したことにより、総資産に占める負債比率が74.2%から67.5%に低下し、財務体質の強化を図ることができました。

なお、機動的な資金調達を目的として、2008年4月7日付けで(株)格付投資情報センターにてA+の格付けを取得しました。

【純資産】

純資産は、前期末の600億3千4百万円から1,227億3千4百万円へ増加し、株主資本比率も前期末の25.6%から32.4%へ向上いたしました。

株式分割の影響

2007年2月21日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式が前期首に行われたと仮定した場合の2007年2月期における1株当たり当期純利益は、101円50銭となります。

(単位:百万円)

連結貸借対照表	前 期	当 期
	2007年2月20日 現在	2008年2月20日 現在
資産の部		
流動資産	11,132	17,832
固定資産	221,925	359,829
有形固定資産	199,197	279,748
無形固定資産	864	1,608
投資その他の資産	21,862	78,472
資産合計	233,057	377,661
負債の部		
流動負債	46,792	93,591
固定負債	126,230	161,335
負債合計	173,023	254,927
純資産の部		
株式資本	58,730	122,086
資本金	7,796	16,662
資本剰余金	7,165	16,971
利益剰余金	43,784	88,466
自己株式	△15	△14
評価・換算差額等	972	252
少数株主分	331	395
純資産合計	60,034	122,734
負債純資産合計	233,057	377,661

保険代理店事業の子会社化

2008年2月21日付けで保険代理店事業を当社より分割。当社の持分法適用会社となりましたが、次期の業績に与える影響は軽微です。

(単位:百万円)

連結損益計算書	前期	当期
	自2006年2月21日 至2007年2月20日	自2007年2月21日 至2008年2月20日
営業収益	62,252	96,806
不動産賃貸収益(SC事業)	60,206	94,567
保険代理店手数料	2,046	2,239
営業原価	35,052	56,410
営業総利益	27,200	40,396
販売費及び一般管理費	5,321	8,753
営業利益	21,879	31,642
営業外収益	447	961
営業外費用	1,526	1,922
経常利益	20,800	30,681
特別利益	125	5,905
特別損失	289	7,247
税金等調整前当期純利益	20,636	29,340
法人税、住民税及び事業税	8,695	14,611
法人税等調整額	△307	△2,780
少数株主利益	69	69
当期純利益	12,180	17,439

連結損益計算書のポイント

SC事業は、ダイヤモンドシティとの合併により営業収益は前期の602億6百万円が945億6千7百万円と大幅な増収となっています。合併後にイオンモール羽生(埼

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー	前期	当期
	自2006年2月21日 至2007年2月20日	自2007年2月21日 至2008年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,150	27,168
投資活動によるキャッシュ・フロー	△40,664	△8,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,224	△20,441
現金及び現金同等物の減少額	△6,289	△2,020
現金及び現金同等物の期首残高	9,525	3,235
合併に伴う現金及び現金同等物	—	1,983
現金及び現金同等物の期末残高	3,235	3,199

玉県)、イオンモール日の出(東京都)を新規に開設するとともに、イオンモール川口キャラの増床・リニューアル及びイオンモール千葉中央ニュータウンの増床を行っています。既存のSCでは、魅力ある専門店の導入を積極的に図り、売上高に連動する歩合家賃の比重が大きい専門店からの家賃収入が増加しました。一方、保険代理店事業も、個人分野に加え法人分野でも営業活動に注力し、営業収益は増収となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当期のフリー・キャッシュ・フローが184億2千1百万円となり、借入金を返済し、有利子負債の削減に努めました。

※フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動からのキャッシュ・フロー＋投資活動からのキャッシュ・フロー

(単位:百万円)

連結株主資本変動計算書

自2007年2月21日 至2008年2月20日	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主 資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年2月20日残高(百万円)	7,796	7,165	43,784	△15	58,730	972	972	331	60,034
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△3,272		△3,272				△3,272
当期純利益			17,439		17,439				17,439
自己株式の取得				△14	△14				△14
合併による増加	8,866	9,806	30,515	16	49,204	0	0		49,204
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)			0		0	△720	△720	63	△655
連結会計年度中の変動額合計(百万円)	8,866	9,806	44,681	1	63,355	△720	△720	63	62,699
2008年2月20日残高(百万円)	16,662	16,971	88,466	△14	122,086	252	252	395	122,734

(単位:百万円)

単体貸借対照表	前期	当期
	2007年2月20日 現在	2008年2月20日 現在
資産の部		
流動資産	10,647	17,408
固定資産	220,017	357,968
有形固定資産	194,887	275,668
無形固定資産	856	1,602
投資その他の資産	24,273	80,697
資産合計	230,664	375,377
負債の部		
流動負債	46,442	93,282
固定負債	125,106	160,509
負債合計	171,549	253,791
純資産の部		
株式資本	58,143	121,333
資本金	7,796	16,662
資本剰余金	7,165	16,971
利益剰余金	43,197	87,712
自己株式	△15	△14
評価・換算差額等	972	252
純資産合計	59,115	121,585
負債純資産合計	230,664	375,377

(単位:百万円)

単体損益計算書	前期	当期
	自2006年2月21日 至2007年2月20日	自2007年2月21日 至2008年2月20日
営業収益	62,551	97,104
営業原価	35,810	57,182
営業総利益	26,741	39,922
販売費及び一般管理費	5,301	8,734
営業利益	21,440	31,188
営業外収益	453	980
営業外費用	1,479	1,879
経常利益	20,414	30,289
特別利益	125	5,905
特別損失	288	7,247
税金等調整前当期純利益	20,251	28,947
法人税、住民税及び事業税	8,536	14,443
法人税等調整額	△302	△2,769
当期純利益	12,016	17,273

(単位:百万円)

単体株主資本変動計算書

自2007年2月21日 至2008年2月20日	資本金	株主資本					自己 株式	株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産 合計
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計			その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2007年2月20日残高(百万円)	7,796	7,165	7165	530	42,667	43,197	△15	58,143	972	972	59,115
会計年度中の変動額											
剰余金の配当					△3,272	△3,272		△3,272			△3,272
当期純利益					17,273	17,273		17,273			17,273
自己株式の取得							△14	△14			△14
合併による増加	8,866	9,806	9,806	841	29,674	30,515	16	49,204	0	0	49,204
株主資本以外の項目の会計 年度中の変動額(純額)									△720	△720	△720
会計年度中の変動額合計(百万円)	8,866	9,806	9,806	841	43,674	44,515	1	63,190	△720	△720	62,470
2008年2月20日残高(百万円)	16,662	16,971	16,971	1,371	86,341	87,712	△14	121,333	252	252	121,585

Topics

トピックス

お陰さまで、合併の成功を力にさまざまな分野で高い評価をいただきました。

イオンモールへの評価

- 日経環境経営度調査「倉庫・不動産・その他部門」第1位 (日本経済新聞社)
 - 日経多角的企業評価システム「プリズム (PRISM)」1,033社中48位 (日本経済新聞社)
 - 国際的SRIインデックス「FTSE4Good」4年連続組入れ実績
 - 大阪・心ふれあうまちづくり大賞「大阪市長賞」受賞
 - 「くまもとUD大賞」受賞
 - 日本SC大賞「人にやさしいSC賞」受賞
 - 優秀省エネルギー機器「会長賞」受賞
 - 「ストア・オブ・ザ・イヤー2008」第1位
 - ディベロッパー大賞「新人賞」受賞
- イオンモール鶴見リーファ (大阪府・大阪市)
イオンモール熊本クレア (熊本県)
イオンモール下田 (日本ショッピングセンター協会)
イオンモール名取エアリ (日本機械工業連合会)
イオンモール羽生 (チェーンストアエイジ)
イオンモール羽生 (織研新聞社)

株主優待制度 新設のお知らせ

新生イオンモールはこのたび、株主優待制度を新設しました。

■対象株主さま

2008年2月20日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主さまより、実施を開始します。

実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまになります。

〈優待制度〉

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

※このサービスを選択されますと、相当額分の二酸化炭素排出権が、有限中間法人「日本カーボンオフセット」(<http://www.co-j.jp/home/>)を通じて取得され、それを日本の国別登録簿に無償で移転することで、日本の京都議定書遵守に貢献します。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」*



イオンギフトカード



カタログギフト

Corporate Data

株式の状況・会社概要

株式の状況 (2008年2月20日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 181,127,507株
株主数 7,573名

(注) 2007年2月20日を基準日として、2007年2月21日付で普通株式1株を2株に分割しております。また2007年8月21日付で(株)ダイヤモンドシティを吸収合併しました。

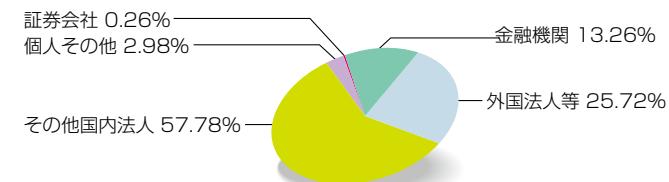
大株主(上位10名)

当社への出資状況

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
イオン株式会社	101,057	55.79
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	9,879	5.45
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	3,505	1.93
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	2,582	1.42
ザ バンク オブ ニューヨークトリシティ ジャスデック アカウント	2,121	1.17
バンク オブ ニューヨークタックストリシティ ジャスデック オムニバスツ	2,001	1.10
農林中央金庫	1,925	1.06
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエスペンション	1,924	1.06
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92
第一生命保険相互会社	1,491	0.82

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位を四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



会社概要 (2008年2月20日現在)

社名 **イオンモール株式会社**
英文社名 **AEON MALL CO., LTD.**
設立 1911(明治44)年11月
資本金 166億6千2百万円
本社所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数 668名 (2008年2月20日現在)

取締役・監査役 (2008年5月9日現在)

取締役会長 林 直樹
代表取締役社長 村上 教行
専務取締役 山中 千敏
専務取締役 木村 洋一
常務取締役 西尾 徹二
常務取締役 平林 秀博
常務取締役 小西 幸夫
常務取締役 藤塚 賢三
常務取締役 池田 吉成
取締役相談役 岡田 元也
取締役 大西 秀明
取締役 寺澤 洋一
取締役 岩本 博
取締役 村井 正人
取締役 高橋 富士夫
取締役 相馬 勝
取締役 岩本 馨
常勤監査役 横井 賢
監査役 西松 正人
監査役 林 有恒
監査役 岡崎 隆夫

詳細については、6月下旬に送付予定の、優待品選択に関するご案内をご覧ください。

株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
お問い合わせ先	イオンモール株式会社 人事総務部 総務グループ 〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1 TEL.043-212-6463 ホームページ http://www.aeonmall.com
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載	http://www.aeonmall.com

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com>から、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



新生イオンモールのスタートに際し、ホームページをリニューアルしました。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。



イオンモール IR ライブラリでは、決算短信及びその他の開示書類、財務データなどを掲載しています。



合併前の(株)ダイヤモンドシティの、過去3年分の経営成績についてご確認いただけます。



このリーフレットは環境対応大豆油使用インキを使用しています。

